

常陸大宮市史編さんだより Vol.8



「生活の中の文化を『市史』に記録しましょう」

茨城県立歴史館首席学芸員 大津 忠男委員（民俗部会長）

常陸大宮市は5つの旧町村が合併して、とても広い面積を持つ市になりました。市民の方でも、自分の住む地域以外のことは分からないという方もいるのではないのでしょうか。また地元の行事でも、詳しくは分からないと思っている方もいるかもしれません。

例えば、「西塩子の回り舞台・祇園祭・おかしま様行事など、どうして自分の住む市にはこのような行事があるのだろう」「山間部に住んでいる人たちと、比較的平らな地域に住んでいる人たちの暮らしや考え方に違いはあるのだろうか」「この地域では、なぜ和紙がたくさん作られ、どうやって作ったのだろうか。どこでその紙は使われたのだろうか」といった疑問をお持ちではないでしょうか。

その「どうして」「なぜ」という疑問を私たちも共有し、答えを探したいと思っています。現在分からなくなっていることでも、おじいさんやおばさんに聞いてみるとその理由が分かることもあります。今、行われていることは、少し前の時代の先輩たちから受け継いできた事が多いのですから。今回作られる市史は、特別有名な人たちの歴史ばかりを綴るものではありません。今生きている私たちが、普段の生活の中で行っている行事や何気ない生活文化も、大切な記録として残していきたいのです。



▲ 西塩子の回り舞台



▲ おかしま様行事(盛金地区)

難しいことはありません。お祭りや仕事の現場や地区の集会などを見学させてもらいながら、市民がどのような生活をしてきたのかを教えてもらい記録していこうと思っています。

山や川など自然豊かな常陸大宮市で生きていく中で、人々がどんな暮らしぶりや、どのような文化が育まれてきたのか、一緒に考えさせてください。きっと他に誇れる文化がたくさん見つかるはずですよ。自分達の先輩がどのような苦勞をし、工夫をし、楽しみを見つけ出して生きてきたのかに気付けるかもしれません。

私たち民俗の調査グループは、皆さんの所にうかがいます。常陸大宮市を知りたい私たちにとって、ここに住む皆さん一人ひとりが先生です。ぜひ、気軽にいろいろなことを教えてください。

■問い合わせ■ 文化スポーツ課
文化スポーツグループ
☎ 52-1111（内線 344）